綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.504
発行責任者　高橋　剛
編集責任者　井上健太郎
発行日：2018年１月

2017年度　事業報告

理事長　高橋　剛

●一年を振り返って

1963年の設立から諸先輩方が愛する福島のために展開してきた運動が脈々と引き継がれ本年で54年目を迎えました。しかしながら昨今はエネルギー問題、人口減少、少子高齢化、地域格差など多くの課題に直面しています。いますぐに解決するのは難しい課題ばかりですが、持続可能な解決策を模索し、地域が求めているものは何か、取り組むべきことを明確にし、その変化を恐れず柔軟に対応することで魅力に溢れ、夢を育めるまち福島の実現に向け新たな一歩を踏み出すことができたと自負しております。

●伝統を継承し、新たな魅力を発信

「祭り」と聞いて、真っ先に思い浮かぶのは自分が生まれ育った地域の祭りではないでしょうか。福島にはわらじ祭りがあります。福島の子ども達に「わらじ」の歴史や文化、伝統そして、わらじの作り方も伝え、福島と言えばわらじ故郷への愛郷心を育むことができました。わらじ祭りは知名度も上がり注目を集めるものとなり全国各地へ福島の魅力を伝えることができました。更なる魅力向上のために、わらじの繋がりを活用し、活動地域のみならず、東京の渋谷駅ハチ公前でわらじ作り体験教室を開催し福島の魅力を発信することができました。

●福島の未来をより明るくする人財育成を

これから未来を担う子ども達が少しでも地域を愛する心を育むために、毎年開催している「わらっし子塾」に加え、昨年初めて開催した「ふくしま未来塾」をより進化させ大学生を対象とし、福島

青年会議所として初の海外事業を開催させていただきました。福島のPRを英語ですることで、自分たちのいまを見つめ直すこと、そして福島からみる世界と世界からみている福島のGAPを感じ、福島の明るい未来を創造するために何が必要で自分達には何が出来るのかを考える素晴らしい時間を与えることができました。何より感動して涙を流す学生までいたことが、私たちの事業が必ず地域のため、福島のためになると確信致しました。子ども達、学生らに数多く成長の機会を与えることで、自分自身の将来、そして愛する故郷「福島の未来」の創造に大きく寄与するができました。

●魅力溢れるまちの実現のために

本年で５回目を迎えた信夫山パークランニングレースは1,000名を超える方々に参加いただき、市街地近くにある信夫山の魅力と自然に触れていただくことができました。また県外の方が信夫山に練習のためにお越しくださっていることをお聞きし本当に嬉しく感動しました。また、昨年実施した中心市街地活性化に向けたアンケート結果から、学生にもっと福島で活躍している企業を知ってもらうため「Fuku-Full」（福島JC HPからもご覧いただけます）という冊子を作成し、若年層に福島の魅力を再認識してもらい、Uターン、定住のきっ

かけを提供でました。今一度、地域を見つめ、故郷を離れたとしても、またいつかは戻りたい故郷「福島」にするために、他の地域にはないソーシャルストックを活用したまちづくりと中心市街地活性化のための新たな価値を創造することができました。

●会員の資質向上と会員拡大の成果

本年は12名の新たな会員を迎えることができました。青年会議所は、「英知と勇気と情熱」を持ったメンバーの結集です。それぞれが素晴らしい資質と高いポテンシャルを持ち合わせ地域社会で活躍し、活性化しようと弛まぬ努力をし続けています。その力を最大限に発揮できる組織運営をし、団結力を高め行動することが必ず地域社会に貢献できるものと確信しています。そして、会員ひとり一人が常に自己成長を求め、絆を深めていくことが組織全体の活力に変わり、私たちの運動が地域活性化につながっていくのです。

●ラストメッセージ

私は福島青年会議所に入会してから11年半という時間が過ぎました。入会したばかりの頃は自分に何ができるのか、何をすればいいのかわかりませんでしたし、深く考えていなかったように思います。いま思うことは私たちの運動は愛する福島のために必ず必要であるということです。新たな価値、未来のために大きな一歩ではないかもしれませんが、着実に、そして歩みを止めることなく前へ前へと進み続けることができる組織です。いままで54年という長い時間で築き上げた伝統と文化を継承し、地域のニーズを把握し未来のために一歩前に出る勇気を持ち、愛する故郷「We Love Fukushima」の気概のもと運動を展開してきました。そして、品格ある青年であるため己を律し、仲間を信じて共に汗をかき、時には涙を流し友情を育んできました。また、変化が速い時代に恐れず挑戦し続け、新たな価値を創造してきました。これからも熱い情熱を持って地域のために努力し続けることをお誓い致します。最後に54代理事長という重責を担うにあたり最後の最後までご支援いただきました、すべての皆様に心より感謝申し上げます。1年間、本当に本当にありがとうございました。

事務局

事務局長　阿部　敏幸

2017年度の事務局は、「Everything Always Changes! ～変化を恐れず、変化を楽しめ！～」のスローガンの基、高橋剛理事長をはじめとし運動を展開する三役、理事、メンバーと福島青年会議所全体のサポートをメインに１年間活動して参りました。

主に正副理事長会議や理事会、会員会議所などの設営、各種事業のサポート、ブロック事業や周年事業、各種大会等の参加、公開討論会の設営、県北４ＪＣや南投ＪＣとの連携と交流などたくさんの経験をさせていただきました。

決して目立つことはない事務局ですが、青年会議所の基盤を作るための会の運営や設営を学ばせていただいたことは私にとって大きな財産となりました。

また、南投ＪＣが来福された時のアテンドと福島市長選における公開討論会を設営しましたが、事務局でありつつ１つの大きな事業を行った達成感と、すべてのメンバーとＯＢの皆様にご協力いただき、アドバイスや積極的な参加をしていただいた事に感謝と感動で、改めて福島青年会議所の一員でよかったと実感いたしました。

高橋剛理事長と渋谷専務、芳賀次長、佐藤次長、新村補佐、山尾補佐、菅野補佐の事務局メンバー、そして福島青年会議所のメンバーの皆様のご協力に感謝しております。仲間との協力、信頼、絆を感じた１年でした。本当にありがとうございました。

財政局

財政局長　遠藤　武義

本年度の財政局は、局長として遠藤、そして次長として安部の二人で活動を行いました。主な任務は、ＬＯＭの財政面・コンプライアンス面でのチェックです。そのために、財政審会議を開催するとともに、各種会議に出席して議案等の精査を行いました。また、本年はＦＢＩという新たな試みを行いました。ＦＢＩとは「財政局会議」の略称で、今野副理事長に名付けていただきました。ＦＢＩは非公式の会議ですが、財政審査会議の前段階の会議として位置づけて議案等の精査を致しました。

財政局の任務の特性上、委員長の皆様には非常に失礼で生意気な指摘等を行ってしまいましたが、ＬＯＭ運営のためと思って何卒ご容赦ください。

財政局は２名だけでしたが、財政審査会議等には専務理事や監事・監査にも出席をいただきます。経験も知識も豊富なこれらの方々にバックアップをしていただいたおかげで、何とか一年間を大過なく終えることができるものと思っています。

最後に、メンバーの皆様、とりわけ正副委員長の皆様のご協力に感謝申し上げて財政局の報告と致します。

まつり継承委員会

委員長　後藤　洋孝

本年度、まつり継承委員会では、福島の文化である「わらじ」に注目し、活動運動を進めて参りました。「第５回福男福女競走」では、参加者全員を参拝させるということで、わらじを神社へ奉納するという設えを追加いたしました。
おかげさまをもちまして、参加者も過去最高人数を更新する事が出来ました。
「出張わらじ体験教室」では、市内の小学校５校に出向き、わらじの作り方とわらじまつりの歴史、文化を伝えて参りました。わらじ作成後に小わらじを担がせるなどの設えも実施し、福島の文化に触れて頂きました。児童たちも非常にわらじ文化に興味を持ってもらえたようで、その後の、学習発表会のテーマにわらじまつりを選んで頂いたりと、郷土の文化を浸透させられたと思います。
「わらじ競走」では、わらじまつりに観客を捲き込むという想いの元に、今までJCメンバーが行っていた、参加者への水掛を一般観覧者に行わせるという設えを行いました。水掛に参加頂いた市民の方は非常に楽しそうで、わらじまつりをより身近なまつりに出来たのでは無いかと思います。
最後に、本年事業開催に伴い多大なる御協力頂きました、協賛企業、関係諸団体の皆様、誠にありがとうございました。また、１年間共に奔走した、まつり継承委員会のメンバー本当にありがとうございました。
この場をお借りして、御礼申し上げます。

ふくしまの人財育成委員会

委員長　菅原　正裕

本年度、ふくしまの人財育成委員会は「Cheer the NEXT. ～ Going to infinity and beyond! ～」（訳：次世代を鼓舞・応援し、無限の彼方へ）をスローガンとして青少年育成事業を３事業開催いたしました。
１つ目の「わんぱく相撲福島LOM大会」では、５月13日に小学４年生から６年生までを対象として開催いたしました。当日は総当たり戦にてわんぱく力士たちが熱戦を繰り広げてくれました。そこで勝ち上がった力士たちは福島県大会、全国大会でも躍動してくれ、子ども達の成長が感じられる涙あり笑顔ありの事業でした。
２つ目は小学３年生～６年生を対象に「わらしっ子塾～サマーキャンプ～」を７月１日～２日に開催いたしました。キャンプの中では、野菜収穫体験や魚のつかみ取りを行い、それらを使って夕食作りなどをすることで、普段簡単に手に入る野菜を作るのがどれだけ大変か、また命をいただくことの有難みを楽しく体験しました。またキャンプでは全てを自分たちの力だけで行い、両親や衣食住など、普段の当たり前への感謝を感じてもらえた事業となりました。
３つ目は福島市内の大学生を対象とし「ふくしま未来塾in香港」を９月に開催いたしました。渡航前には２度の研修会を行い、プレゼンテーション練習や英語の先生を招いて発音練習を行い、入念に準備をしました。現地では香港大学、香港科技大学という世界ランキングでは東大クラスの大学にて福島や日本のPRプレゼンテーションを英語で行なったり、現地学生と交流をしたりし、世界レベルを体感しながら視野を広げてもらうことができました。
本年は当LOMでは初めての海外事業を行なったこともあり、委員会メンバーや理事メンバーには大変なご苦労を掛けてしまったと思います。しかし、現役メンバーやOBの皆様に温かい激励やアドバイスをいただいたことで無事に全事業を行うことができました。心より感謝申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

夢のまちふくしま創造委員会

委員長　石郷岡　武

本年度、夢のまちふくしま創造委員会では、「創造しよう、素晴らしいまち福島！」のスローガンのもと一年間活動してまいりました。５月には、第５回信夫山パークランニングレースを開催し、1000名を超える方にご登録いただきました。今年は福島市の名物でもある円盤餃子の試食や福島の食も堪能していただき、福島市民や、全国各地、大勢の方に福島市のソーシャルストックでもある、信夫山、そして福島市の魅力を発信することができました。また参加者の方に桜、ツツジの植樹。子供たちをメインに芝桜の植樹をしていただきました。

他にも、中心市街地活性化事業として、去年、福島市の小中学生・高校生、約30,000件のアンケートを取得した結果、福島市の企業を知りたいとの意見が多かったため、若年層世代の市外流出を減少させるべく、若年層へ福島市の魅力(企業)を冊子として発信しました。どちらの事業も大変な事業で、委員会メンバー、福島青年会議所のメンバー、ＯＢの皆様の協力があってこその成功だと思っております。一年間本当にありがとうございました。

会員資質向上委員会

委員長　鈴木　優

会員資質向上委員会は、「報恩感謝・見る前に飛べ」をスローガンとし、新たな仲間の輪を拡げるべく会員拡大運動・資質向上のセミナーを行い邁進してまいりました。例年成果に結びついている一斉拡大運動を継承しつつ、今年は例会時に各委員会の副委員長による拡大報告会や各委員会開催時のオブザーブ参加をし、新たな拡大情報の提供とリストに上がって居る方への進捗状況などを行い全メンバーで拡大運動を行うんだ！という意識付け徹底的に行ってきました。２月には会員のさらなる拡大意識向上と拡大するための手法の学びの機会に、福島青年会議所のＯＢでもあります佐藤朋幸先輩を講師にお迎えして、拡大総決起集会を開催いたしました。ご参加いただいたメンバー皆様が拡大の重要性を再確認できたと思います。皆様のご協力あって12名の新入会員が入会いたしました。心より感謝申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

また４月にはＪＣＩ公認セミナーでもありますPresenterセミナーを開催いたしました。10時間という長いセミナーではありましたが、内容が面白くあっという間に終わるくらい受講生は集中しプレゼン能力は上がったのではないかと思いました。

そして、とうろう流し花火大会においては、昨今の異常気象により台風の影響で開催河川の増水により、当日ギリギリまで開催を決められない状態でありました。しかし奇跡的に花火も上げられ何とか開催することができました。福島とうろう流し発興会をはじめとする、福島県、福島市、警察署、消防署、消防団など多くの関係各位のご協力のもと、開催に至ることができる事業でございます。髙橋理事長はじめ多くのメンバーにご参加・ご協力を賜り、事故・ケガもなく、福島市の夏の風物詩を運営できましたこと、忘れられない思い出の事業となりました。今年度のとうろうの一文字は【恩】です。この一文字は委員長が決められるということで息子の獅恩の恩の字とさせていただきました。委員長冥利に尽きる事業です。

10月には会員資質向上セミナーを行い電通から橋本新さんを講師に招き【まじめにふざける】という題目で講演いただきました。既成概念に捉われない考え方に今後の青年会議所の在り方や仕事・家族に対する想いが変わったように感じました。

会員の拡大は、40歳で卒業という青年会議所のルールの中、毎年必ず行っていく永続的事業です。今後の福島青年会議所の光ある未来のために、皆様にご協力いただきながら、次世代へ新たな仲間の輪を繋げて参ります。一年間、誠にありがとうございました。

総務委員会

委員長　井上 健太郎

総務委員会は、「Challenge general affairs ～挑戦する価値あり～」をスローガンに一年間活動をしてまいりました。行った活動としては、毎月の例会設営、東北青年フォーラムの取りまとめを行い、９月公開例会では、市民の方に福島青年会議所の活動を知ってもらい、また、茂木健一郎氏による「あなたが変われば福島が変わる」のテーマで講演会を開催しました。参加者をした市民の皆様が地域の担い手としての意識の醸成に繋がるきっかけ作りになりました。その他にもさまざまな総務に関わる部分を担い、青年会議所メンバーの下支えをしてまいりました。

2017 年度が始まる準備段階から、最終事業となる 12 月例会・卒業式まで息つく暇の無い、盛り沢山な１年間を過ごした委員会であったと思います。しかし、多くの方々に支えて頂き、また委員会メンバーに力を発揮してもらう事で１年間を乗り切ることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。また、私の念願であった、100％例会を開催する事が出来、ご協力いただいたメンバーの皆様に感謝申し上げます。１年間誠にありがとうございました。